

運動会における表現活動

安 田 美津子

昭和52年10月より飯田先生をお招きして、創作舞踊の研究会を園全体でもつようになった。この研究会をもつ前にも、身体を通しての表現活動は普段の保育の中でもとり入れたことがあったが、方法をよく知らなかったために、つっこみが浅く、「どうしてみんな同じ動きになってしまうのかな？これでいいのかな？」という反省ばかりがあとに残った。

まず始めに、身体を通しての表現活動をなぜやらせたいかという点、芸術教育が人間形成のための重要な教育であるというのは御承知のとおりであり、舞踊はその教育の手段と考えるわけです。

教育の手段は舞踊だけでなく、音楽、美術、文学、数学など数多くある。その多くの教科、すなわち、多くの手段の中でも、舞踊は最も基本的で、かつ最も効果的な教育手段であると思われる。特に幼児期は、動くことを喜び、身体的なあそびを好んでする時期なので、よい手段だと思う。

しかし、ただ「踊りを踊る」ことをもって教育と考えるのはまちがいである。教育舞踊における舞踊とは、できあがった既成の舞踊を覚えるのではなく、舞踊ができていくまでのプロセス（作品ができていくまでの過程全部を意味する）のことである。

ここに教育舞踊の具体的目標をいくつかあげてみる。

1. 健康・運動的・表現的な身体
2. リズム感の発達（即興の分野においては自然に刺激としての音や曲にのっているし、創作の面においてはかなり複雑なリズムを自分でつくっている）

3. 即興能力（舞踊においての即興は、直感的にとらえたものを、身体の運動で即座に表現することである）
4. 豊かな表現力（人間の思想や感情を表現する方法は文学のように文字を使ったり、美術のように画布やえのぐを使ったり、音楽のように楽器をもちいたりするが、これらはすべて客観的な物質であり、したがってこの場合の表現技術というものも客観的物質を使用する技術である。これらに比べ舞踊においては、表現する主体と表現をなす客体は同じく自分であるという点で他の芸術にはみられない特色があり、したがって豊かな表現力をもつ人間は、豊かな表現をするという人間になる）
5. 高い情操
6. 創造的な人間

以上教育舞踊について考えてきた。

運動会における表現活動の報告

まず、従来の運動会について考えてみると、普通保育園や幼稚園でおこなわれているリズムは、振りつけのある曲、あるいは曲に保母が振りつけたものを一方的に教えこみ、そろってきれいに、見栄えのするように練習を重ね、当日に備えたものであった。毎年、運動会のたびに、それをやってきたが、心のかたすみで常に疑問をもちつづけてきた。

- 父兄の目を気にしているものであって実際、子どもたちに得るものがあるのだろうか。
- 楽しんでやっているのだろうか。
- 運動会の日たった数分間のために、一方的に教えこませたものを、ああ動け、こうしろと頭からおしつけているのみのものであっていいのだろうか。
- 先ほどあげた教育舞踊の具体的目標にあてはまっているところがどれだけあるのだろうか。

そこで、普段の保育の中で活動している、身体を通しての表現活動を運動会で発表したいと思った。

参考までに4月から運動会をはじめるまでの活動を簡単に記してみると、主活動においてとり扱ったのは4回であるが、曲を刺激として動くこと（即興）や、自由なポーズなどは普段の保育の中で、ときどき行なっていた。4回の活動の中で扱った題材は、さる・ぞう・おばけごっこ・毛虫・洗濯機・おふろ・なわとびなどがある。

年中児29名のクラスであった。

運動会までの過程

① 仮の題材を決める

8月10日

- 身近かなもので、子どもの興味のあるもの。
- 形のはっきりしているもの。
- リズムのはっきりしているもの。

この3点に注意しながら、おもちゃの中で4つ選ぶ。男児が圧倒的に多いクラスのため、男の子の好きそうなおもちゃばかりになってしまった。

ロボット・恐竜・汽車・飛行機

② その題材で表現活動をする。

8月22日

この日の導入段階を含めた反省

- 曲を刺激として踊ることは、プールあそび前の準備体操をかねて、たびたびやっていたので、抵抗なくリーダーを交替してできる。が、1人1人が自由に別々になると動きが小さくなったり、ふざけて走ってあるくものなどいて、なかなかうまくいかなかった。
- おばけ という題材で即興をやった。

6月の頃にやった時と同じような動きであるが、おばけの種類が増えた。

- おばけごっこのあと「次はアイゼンボーグごっこやりたい」と催促され、アイゼンボーグごっこになる。こちらの意図していたロボットに近かったためアイゼンボーグごっこを展開する。

ところが、最近テレビでやっているロボットは精巧に作られていて人間の動きに近くなっているらしくて、こちらの想像していたロボットの重量感、ギク

ジャクした動きなどがみられなかった。

- 恐竜は、歩くところ、つめをたて、手を開いて指を曲げた感じ「ガオー ガオー」とはえたてる様子など、特徴をよくつかんでおり大変よく表現できた。またフレーズもきちんとできていた。
- 汽車はつながって走るだけの単純な動きだった。
- 飛行機になると、個々の方が動き易いらしく、1人ずついろいろな格好をして走っていた。人数を多くしてグループで表現させてみると、形は複雑なものができるが、スピード感がなくなってしまう。

③ 題材決定「おもちゃ箱」

8月22日に動いた中で、恐竜の動きが大変印象的であったので、それをモチーフとした。もう少し動きが欲しいため、子どもたちの興味のありそうな飛行機・ロボット・ねじで動くおもちゃを入れ「おもちゃ箱」に決定した。

題材1つ1つをもっとていねいに、話し合いを深めて研究していくことが必要となり25日に恐竜とねじで動くおもちゃについて、29日に飛行機とロボットについて、それぞれ表現あそびをすることにした。

④ 決った題材で表現活動をする。

8月25日

8月29日

8月25日の指導案は第1表(P51～52)のとおり

その考察と反省

- 導入において、野球ごっこをする前の段階で心身共にリラックスし、解放的になることができた。
- 野球ごっこでは、好きな友だちと2人組になる。ピッチャーとバッターにわかれて動いたり、キャッチボールの様子をしたり、打ったあと走って、すべりこみをやっている子も見られた。
- 花火においては、夏休みに経験している子がほとんどで、それぞれ自分で考えた動きをやっていた。ロケット花火・ねずみ花火・打ち上げ花火・せんこう花火など。
- 恐竜においては、身体的位置(重心)を低めに、ゆっくり動く様子で重量感

がよく表われていた。また、鳴く時の顔の表情、つめをたてた手の様子などから怖さが充分感じられた。2人ずつ発表させると、戦う場面も見られた。

- 今は乾電池のおもちゃが沢山出まわっているためか、ねじで動くおもちゃの印象がうすかった。したがって動きもこちらで期待するようなものがでてこなかった。

29日はロボットと飛行機を表現する。

- 導入として、朝からおもちゃのロボットを部屋においておき自由あそびの時間に充分あそばせておいた。実際にロボットを見たということと、話し合いをより深めたということで、前回よりよい動きが見られた。重量感（ゆっくり移動する様子）ギクシャクした動き、機械的な動きなど見られた。
- 次に飛行機は、図鑑を見ながら、いろいろな種類の飛行機があることを確認させ、ジェット機・プロペラ機・ヘリコプター・ロケットなど1つ1つについて動いてみた。それなりに特徴をとらえて、動くことができた。

- ⑤ 仮の構成をする。 8月30日

ABCDの4単位形式にあてはめて構成する。

- ⑥ 仮に構成したものを子どもたちにおろし動かしてみる。 9月1日

- ⑦ 構成決定 9月3日

第2図参照（P53）

- ⑧ 決定したもので動かしてみる。 9月4日

「おもちゃ箱」の表現活動をする。

反省

- Aのところで、両角から出てきて円形になる時の間隔のあけ方がむずかしい。
- 恐竜のパターンを印象づけるために、動きをもっとはっきりさせたい。手を上にあげたとき、自然に「ガオーガオー」と声を出しているのので、それを言うことにする。その方が子どもも、そのものになりきれよう。
- Bのロボットの動きでは、機械的なギクシャクした感じをもっと強く表わせればよいと思う。
- Cの部分は自由に庭いっぱいに行かせる。4種類それぞれのパターンをお互

いに生かすため、動作を大きくしたほうがよい。

- ロケットの出発、全体の着陸の合図はS君に言ってもらうようにする。
- 全体に1つ1つの動作をはっきりさせる練習が必要である。

⑨ 音とりをする。

9月5日

それぞれのパターンを何呼間、どのくらいの速さで動くか、きちんと調べメモしておく。

そのメモに合わせて、シンセサイザーあるいは身近かにある道具を使って、音とりをする。

⑩ 録音した音に合わせて踊る。

9月7日

音だけを聞かせ、頭の中で音と動きを想像し、耳に慣れさせる必要もある。以後は、音に合わせて動作を大きくする練習が続けられる。その練習している過程において、全員の意識が高まり、まとまってくる。練習回数は既成のリズムに比べてはるかに少ない。

⑪ 運動会当日

9月21日

雨降りのため、小学校の体育館にて行なわれた。広さを気にすることなく、保母の心配をよそに1人1人がのびのびと充分活動していた。

運動会を終った感想

- 初めての試みで、構成、音いれなど大変であったが、例年のリズムに比べて、本当に「やった！」という実感があり充実していた。
- 普段の保育にとり入れている表現活動のまとめを見ていただくことができてよかった。
- 何よりも練習する過程において、子どもたちが興味をもって喜こんでやること。これは身近な題材により、自分たちが考え出した動きであるということを意識しているからと思われる。
- 出来あがったものはもちろん、題材についての話し合い、表現活動など、その過程が大切であることをしみじみと感じた。
- 音に対して子どもたちは大変敏感である。

それだけに質のよいものを選んでいきたい。

- 子どもの動きは小さいものである。したがっていかに大きくはっきり動かすか。その時の保母の言葉がけ，導入方法によって大変ちがう。
- 音のイメージも子どもたちの中からひき出せたらもっとよかったと思う。
- 既成のリズムより，空間もリズムも共に複雑であったが，無理なく自然にこなすことができた。

参考までに，運動会が終ってから創作リズムについて父兄にアンケートをした。

それをまとめてみると，

- 身近かにある子どもたちの大好きなおもちゃというテーマはよかったと思う。
- いろいろのおもちゃの様子，雰囲気がよく表われていた。特にロボットの動きが印象的だった。 ということは，モチーフの動きが成功したと考えられる。
- のびのびと楽しそうにやっていた。
- 今までのようにメロディや歌のある曲ではなく，音だけの構成なのに動きがよくあっていて感心した。
- 幼児のかわいらしさ，あどけなさがなくともなりない。
- 活発な動き，創造性のある動きで，大変よかった。

以上のような感想が寄せられた。

それにしても創作リズムを見たのがはじめてという保護者がたぶんほとんどであったと思うが，それにもかかわらず，アンケートの結果，創作リズムということを意識して見たという意見が，回収率70%のうち74%と大変多いのにびっくりするとともに，うれしい事であった。さらに今までのリズムと比較してよかったという反応が70%もあり，悪かったというのは3%。どちらでもないという無関心層が14%であった。

この結果をみて，最初「保護者の方々にわかってもらえるかしら…？解説をつけた方がいいのではないか？」と心配したことが消えた。さらに2回3回とたび重なるごとにもっと理解していただけるだろうと自信がついた。そして目が慣れてくると，きっと創作リズムのおもしろさがわかっていただけると思う。

次に運動会に発表したことも含めて、表現活動全体について考えてみる。

本来、子どもは身体を動かすのが大好きである。生後数ヶ月の赤ちゃんでも音楽が流れると耳をかたむけ手足を動かす。これは人間の本能と思われる。しかし大人も子どもも普段の生活の中で踊るという機会はめったにない。動くことの好きな子どもたちも踊る機会が与えられず、もって生まれた本能を表わせないでいる。そして年齢が進むにつれて、恥ずかしいという感情が加わり、人前では踊りにくい状態になってしまう。

クラスで表現活動を始めてやった時、思っていたより動いてびっくりした。4才児ということもあってか恥ずかしいという意識が強くなく、お互いにのびのびとやることができた。そして、楽しさがわかってくると「次は〇〇やろうよ」と子どもたちの中から声がかかるようになった。グループで協力して1つのものを表現するときは、普段の友だち関係などもよくわかる。そこで、いつもはみ出してしまいがちな子は保育が意図的に誘導してやることも必要である。また、消極的な子どもがこの時間になると生き生きして自分を表現するという例が2.3あった。これについては他のクラスの意見も同様。その後、普段の生活の中でも自分を表に出すようになり、元気がよくなった子もいる。

グループごとの話し合いが活発に行なわれ、言語面にも大変よいし、身体のあるゆる部分を動かして活動するので、運動も充分である。さらにグループの中で協力して1つのものを作り上げるうえにおいて、社会性のめばえ、協調性なども育っていく。

表現あそびを始める最初の時間に「人のまねをしない」という約束をする。これは絵画製作面においても共通と思われるが、1人1人の考え方を重要視し、それぞれのよいところを認め、励ましてあげる。

最後に、これから表現活動をやってみたいと考えておられる方々のために、実際やってみて感じたことを参考までに述べてみたいと思います。

学校時代に学習した即興と創作というものを、2本立てで子どもにおろしてきたわけであるが、創作にはいるまで即興を充分とり入れて、心身共にリラックスさせ、

創造性を豊かにすることを多くやった。それによって子どもたちは抵抗なく創作に入っていくことができ、動くことの喜びを知った。

題材の選び方であるが、年令の低いほど、経験を数多く重ねたもの、それもクラス全員がいっしょに経験したものとか、毎日家で経験していることなどがよい。それから形やリズムのはっきりしているものが表現しやすい。ねらいは年令によって異なる。

導入方法においては、いつの保育においても最も大切なことであるが、いかに豊かなイメージをわかせるか。心身共にリラックスでき充分活動できる状態にしておく必要がある。それから、実際に子どもが動いているとき、どんな場面を想像し、何を考えて動いているか見取る力を保育自身養う必要がある。ちょっとした動きのちがいをも見落とさずにその価値を認めてあげること。そして、おもしろい動き・かわった動き・新しい動きなどした場合には、ほめて励ますこと。友だちにもそれを知らせてやることが大切である。

動いている時間は長すぎてもいけないし、子どもの動きの様子を見ながら切り替えていくことなどを感じた。

私自身、まだ研究している段階なので、いろいろやりたいことや、疑問点などあるが、保育の中の1部分にとどめないで、1年の流れの中にうまく組み込んで、今後も続けていきたい。

第 1 表

8月25日 指導案			
ねらい 恐竜の重量感、こわさなど表わし元気に動く。			
ねじで動くおもちゃの様子を表現する。			
題 材 恐竜・ねじで動くおもちゃ			
	指 導 内 容	留 意 点	幼 児 の 活 動
導 入	タンブリンに合わせてリズム室の中を歩いたり走ったりする。	タンブリンの音に集中させリズムにあわせて歩いたり走ったりさせる。	タンブリンの音にあわせてリズム室の中を歩いたり走ったりする。

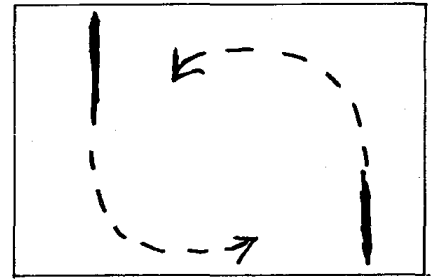
	指 導 内 容	留 意 点	幼 児 の 活 動
の 段 階	<p>リーダーの模倣をする。</p> <p>野球ごっこをする。 (2人組になる)</p> <p>花火の様子を表わす。</p>	<p>かわった動きなどとり いれ興味をわかせる。 リーダーを交替させる。</p> <p>2人で相談し投げたり 打ったりする様子を楽し く表わすよう助言する。</p> <p>1人または2人の組に なっているいろいろな花火を 思い浮かべて動くようにする</p>	<p>リーダーと同方向に模 倣する。</p> <p>リーダーになりたい人 は交替でリーダーになる</p> <p>2人組になり相談して から野球ごっこをはじめ る。</p> <p>野球ごっこのいろい ろな様子をする。</p> <p>花火の種類によって1 人が2人の組に分かれる。 花火になって動く。</p>
恐 竜	ね ら い	留 意 点	幼 児 の 活 動
	恐竜の重量感・こわさ など表わし元気に動く。	恐竜について話し合 いをもつ。充分に話し合 いをしてから動かす。	<p>恐竜について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手足の形 ○歩き方 ○鳴き方 <p>恐竜になって動く。 友だちの動きを交互に 見る。</p>
ね じ で 動 く お も ち ゃ	ねじを巻く様子、それ によって動くおもちゃを 表現する。	家にあるおもちゃ、見 たことのあるおもちゃに ついて話し合いを進める。	<p>ねじで動くおもちゃに ついて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家にあるもの ○見たことがあるもの <p>おもちゃになって動く。 友だちの動きを交互に 見る。</p>

第 2 図

構 成 4 単位形式

① モチーフ……………恐竜の動き

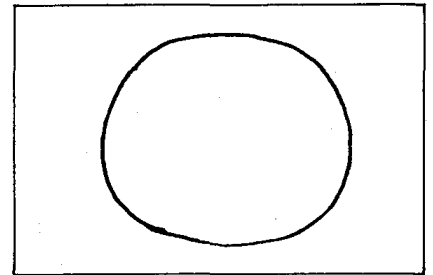
(1 番印象深い動き)
(基本の動き)



2 列から円に

② A の発展……………ロボットの動き

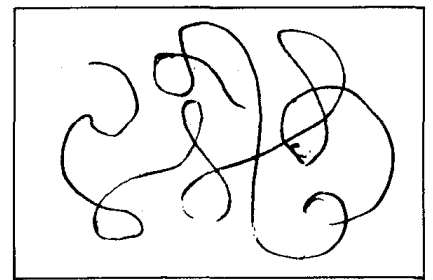
(A の動きをさらに)
(印象づける)



円

③ コントラスト……………ジェット機

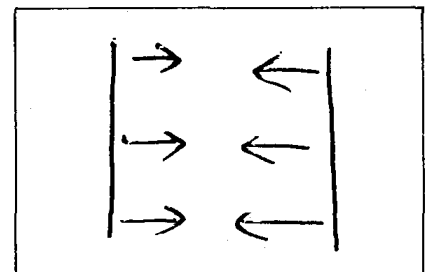
(ABD の動きを) プロペラ機
(お互いにひきた) ヘリコプター
(てるようにコン) ロケット
(トラストな動き)
(をもってくる)



自由に動く

④ 終止……………ロボットの動き

(AB の動きをさ)
(らに印象づけま)
(とめる)



2 列中央に集合, 最後 2 ~ 4
人の組でポーズをする。

(上田市 豊殿保育園 保母)